

編集委員

委員長 町 泉寿郎

磯 水絵

高山 節也

田中 正樹

牧角 悦子

編集後記

本誌は二十一世紀COEプログラムの二年目にあたる二〇〇七年度末に創刊号を発行し、以来、十一号を数える。決して意図したわけではないが、今号はすべて江戸時代初期から明治期まで、近世・近代の時代を対象とした論考となった。何よりも、内容的にかなり多様性のあるものをお届けできたことを嬉しく思っている。中国哲学研究者等による経書解釈をめぐる論考、日本文学研究者による日本漢詩に関する論考や上田秋成に関する論考、中国語学研究者による訓読と語学に関する論考、明治期の学術史に関する論考、また幕末の東洋・西洋の文化交流に関する講演記録、儒教受容の日本の特性を取り上げた講演記録、医家の医学・漢学にわたる蔵書の目録などである。これは我々が志向する日本漢学・日本漢文学が多様な研究領域に跨るものであること、それこそがこの学問領域の特色であり、魅力であり、可能性であることを例示するものと考えている。

本年度、二松学舎では文部科学省から私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択され、「近代日本の『知』の形成と漢学」のプロジェクトを五年間にわたって推進することとなった。かつての二十一世紀COEプログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」の後継事業として、日本漢学・日本漢文学の教育・研究に関する諸活動を展開していく予定である。各位のご支援を心よりお願い申し上げます。

(町 泉寿郎)